

反閉

世に傳ふる所はこの鐘銘は僧清韓がつくる所に於てその文に國家安康四海施化萬歲傳芳君臣豐樂又東迎素月西送斜陽などいへる句あり御諱を犯すのみならず豐臣家のため當家を呪詛するに似たりといふ事を天海一人御閑室へ召れたりしとき密々告奉りしといふこの事いぶかしげれどもまたなしとも定めがたしいま後考の爲爰にふるす坂上池院日記

〔下學集〕下藝返閉天子出御之時陰陽家所行也又謂之禹步也

〔白石紳書〕十一反閉ハ、ヘンバイとよむ也、禹步也、故にヘンバイをフムといふ也、陰陽家にあり、

〔倭訓栞〕中編二十三へんばい 反閉の字、十節録に見えたり、五字の反閉とは、天武博亡烈なりと、

三議一統にみえたり、軍家に遍唄といふも、是を誤るにや、

〔貞丈雜記〕神佛十六一反閉と云は神拜の時する事也、陰陽師の法也、三足の反閉、五足のへんばい、九足の反閉など、てあり、陰陽師に尋學ぶべし、又閉配とも書也、古代貴人出御の前に、必陰陽師をし

て反閉を行はしむ事舊記に見えたり、略中されば閉坏も反閉も同事なるべきか、閉坏八座と云

は、惡き方角と見えたり、其惡き方角をふみ破る呪禁の方術を行ふ事を、反閉をふむと云なるべ

きか、將軍家など出行の前には、必反閉を行ふ事は、惡き方角をふみ破る呪禁なるべきにや、

〔荀子増注〕三相禹跳湯偏尸子曰禹之勞十年不窺其家手不爪歷不生毛偏枯之病步不相過人曰禹步

〔新猿樂記〕西京有右衛門尉者、一家相舉來集、所謂妻三人、娘十六人、略中 十君夫陰陽先生賀茂道世、

略中 凡觀覽反閉究術、祭禮解除致驗、

〔璫囊抄〕六及打ト云テ、正月ニ用ハ何之因縁ゾ、

世ニ流布ノ説、蚩尤ガ頭ヲ、毬杖之玉トテ打ト云リ、是ハ漢土ノ義ヲ學侍リ、十節録曰、黃帝與蚩

尤合戰于坂泉之野、蚩尤有鐵身、黃帝ノ箭不中、黃帝仰天祈之、于時玉女降自天、反閉ス、蚩尤ガ身如

湯解テ被殺畢、仍テ取蚩尤頭、毬之取、眼射之ト云々、

〔令集解〕十九推步盈虛中略尙書大傳曰、步推也、盈虛謂日月五星之度數也、跡云、推步也、穴云、盈虛謂日月五星之度數、二卷具說也、

謂日月五星之度數、二卷具說也、